

第1回鏡野町総合教育会議 議事録

1 日 時 平成29年7月19日（水曜日）
午後2時30分開会 午後4時30分閉会

2 会 場 ペスタロッチ館 特別会議室

3 出席者 町長 山崎 親男
教育長 年岡 康雄
教育長職務代理 石原 昭和
教育委員 定久 正義
教育委員 小椋 潤二
教育委員 宗川 万喜子

(事務局関係)

総合政策室長 武本 学
学校教育課長 宗森 妙子
生涯学習課長 和田 敦志
総合政策室主事補 安東 亜佐芳

4 協議事項 (1) 鏡野中学校統合後の状況について
(2) かがみの中央こども園の状況について
(3) その他

5 会議の経過及び発言

○開会

○山崎町長あいさつ

○年岡教育長あいさつ

○協議事項

議事録署名については、町長と教育長が行うこととなった。

(1) 鏡野中学校統合後の状況について（意見交換）

山崎町長 それでは、命によりまして私が議題を順次進めていこうと思っておりますので
協力をお願いいたします。

 まずは、一年を経過いたしました鏡野中学校の統合後の状況についてを議
題といたします。事務局の説明をいただき、皆様方の意見をいただきたいと思います

いますのでよろしくお願いいたします。

武本室長 手元の資料に6月1日現在の小中学校、保育園・幼稚園の児童数の一覧を配布しています。中学校の状況について概要、概況をご報告願います。

教育長 状況だが、教育委員会の把握している中で大きな課題はない。今年度この資料にあるように中学校の生徒数は321名。これは特別支援学級の子どものも含めた人数。全クラス30人以下学級になっている。現場の教員、校長からは30人学級にしたことは効果があるという話をいただいている。学校として授業がうまく進まない等の問題は今のところ起きていない。学校に行ってもチャイム着席という学級規律を徹底している。生徒たちは部活動も頑張っている。一番心配していたのは富、上齋原、奥津の生徒で学校に行きにくくなる子どもがでてくることだが、新たな不登校生とは1人もいない。施設も整備していただき、エアコンはありがたかったと校長から伺っている。体育祭に向けて子どもたちは学校と話をしながらいろんな子どもたちの思いを込めた体育祭づくりをしてくれるものと思う。

山崎町長 特別支援学級ということですが、各学年何人くらいいるのか。

教育長 支特別援学級は1年生5人、2年生4人、3年生4人。支援学級の考え方は、できることは普通学級でして、支援学級在籍だが、籍は普通学級にある。算数や国語などは支援学級でやる。美術や音楽は状態によってはクラスです。

教育長 鏡野中の場合、教員の加配は特別支援加配が県費で1名、町費で3名配置している。特別支援学級は知的が1、情緒が2つある。障害の項目の中に、ADHDや学習障害等いろいろ障害の分類がある。医学的に医師の診断を受けて教育支援委員会を経由してどのような形で教育するのが望ましいかを判断して保護者の意見も含めながら支援学級に在籍させている。症状は子ども一人ひとりによって違いがある。

定久委員 今は支援学級、支援学校での教育が本来の教育であろうというような言い方をされる方もいる。それくらい、支援の必要な子に対しての教育は、いろいろな面で充実してきている。そこでの教育はすばらしいと思う。

山崎町長 以前、大野小学校で1,2年生、鶴喜小学校1年生で多動性の児童がおり、学級崩壊が起きた。今はそういうことはないのか。

教育長 本人が飛び出すだけでは学級崩壊にならない。その子がいることにより他の子どもたちも落ち着かなくなると授業ができないなど、そのようなことはない。しかし、それに近いものはある。その対処としてできるだけ支援員をたくさん配置しているので、現場としては助かっていると伺っている。

定久委員 毎年就学前には医師を含んだ話し合いの中で気になる子どもたちの診断結果を持ち寄っての会がある。そこで、毎年審査をして、その結果で学級が決まっている。学校での判断と保護者の希望を聞いて行っている。最近では支援学級に入るからということで保護者ともめるとか学校が苦心しているとかいうようなことはなくなってきているのではないかと思う。保護者の理解も非常に

進んできている。

教育長 岡山県は特別支援学級設置率が全国でも高い。経費がかかるので、減らしたいという意見もある。奥津小は支援学級に子どもが1人しかいない。支援のいる子どもを普通学級に戻そうとする動きがあったが、これは絶対にだめ。特別支援学校は、将来のことを考えた教育をしている部分があり、職業に就けられるようにという部分がある。特に知的の場合には特別支援学級より特別支援学校の方がいい場合もある。地域、保護者の考え方が支援学級に入ることを隠さなければならないという考えがなくなってきた。そのため、支援のいる子どもが増えてくるだろうと思う。自分の子どものためにいい教育をしてほしいから支援学級に行きたいという希望を出される方が増えてくると思う。基本的には普通学級に戻すための支援学級での学習というのが私たちが学校に求めている姿。

定久委員 最近、支援の必要な子どもが非常に増えてきた。これが気になる。

石原職務代理 基本的には子ども同士でと考えたときに、少子化でクラスや地域で同じような仲間が少ない。核家族化やひとり親が多くなり生活優先での勤務関係で放置ではないが子どもの面倒が手薄になる部分もひとつの要因ではないか。支援が必要な子どもが増えてきているのは事実。町内でも支援学級がある小学校は半数以上。

山崎町長 中央こども園の夕涼み会に行き、ある父兄から相談を受けた。うちの子どもは勉強ができないのでなんとかしてやりたい、どこかの施設を借りて教員のOBなどをお願いして授業をしてもらえないだろうか。どこか空いている公共施設はないか。という相談を受けた。そういったことが必要であれば授業についていけるまでを教えることはできないか。

教育長 鏡野町は塾があるが、公がつくるのは難しい。勉強についていけない子に対しては個人授業というのを各学校で取り組んでいる。公営塾をつくるとなると全地域を対象にできない。

山崎町長 型にはまったことではなく、どうしたらいいのかなという話。そういう親がおられるというところで解決方法を皆さんがもたれているようなら教えていただきたい。

教育長 例えば、大野公民館を使ってボランティアを集う。教材費をもらうのは可。ボランティアが学習支援をすることはできるのか。

学校教育課長 可能ではないか。

教育長 公が公民館で学習塾をするというわけにはいかない。誰かが入って、自分がボランティアのような形でして、教材料費だけをもらう方法であれば可能かと思う。

武本室長 公がする場合と民間、ボランティアがする場合というのをよく考えて取り組まなくてはならない。公がやるとなるとどこまで広げるかという問題がある。

山崎町長 小椋さん何かありますか。

小椋委員 少人数の上齋原から鏡野中学校に行くには不安もあったが、今は楽しんでいるようなので安心している。部活動もいろいろな部活に入って、上齋原ではソフトテニスしかなかったのでよかったと思っている。

山崎町長 石原さんはどうですか。

石原職務代理 通学バスの乗り方、例えば上齋原から旧奥津地区を一緒に出るなどの路線の見直しを図っては。経費削減につながるとは一概に言えないが中学校単位で生徒を乗せるというよりは地区単位で乗せるというのも考えてみてもいいのでは。

山崎町長 宗川さんはどうですか。

宗川委員 生徒が体育祭の準備に取り掛かっている。保護者から耳にしているのは、子どもたちの意欲や、子どもたち自身が考えて、中学校でどう自分たちの力を使っていくのか、そういったものを体育祭という大きな行事を通して学べるのではないかということ。先日職場体験があったが全員が第一希望の場所に行けたわけではない。第一希望に行けなかった子から、最終的には楽しかったという声を聞いた。学習だけでなく、大人になっていく上で意欲、実践といった部分を職場体験では学べたと思う。勉強もしなければならぬが、その他の部分もたくさん学んでほしい。

山崎町長 それぞれ皆さん方からお伺いをいたしました。総じて、子どもたちの自主性、主体性が図れている、あるいは中学生になって選択肢が増えているというところでは主体性が活かされる。そういう中で部活の取り組みなど気にかけていたものが段々ほぐされてきているのではないかと。子どもたちの生活が体育祭に入ることで多少動揺が見える。去年は体育祭による動揺は見られなかったのか。

教育長 体育祭に向けて8月の後半から準備に入る。今までは3年生がリーダーとなってブロックの対抗戦となっていた。そういうところで、下級生を引っ張っていったりだとかいろいろな競技のルールを作ったりだとか、そういう部分は旧鏡野中学校のときからあったが、それがいいかと言われれば課題もたくさんあった。自分についてこない子どもがいれば3年生の子は腹が立つことがあったりしたが、学校側がうまく自主性を尊重した形でやってきてくれた。しかしクラス数が4、3、4になったことでそれができなくなった。その中で新しい工夫をしないとイケない。今年は子どもたちと学校の先生とが協議をして話し合いを進めてくださっていると思う。

去年よりは変化したものが生まれてきていると思う。子どもたちも自分たちの意見が結果として成果が出ればそれに向かってしっかり進んでいけると思う。これから先も生徒数を見ていると小学校一年生が96人しかいないので6年後には厳しい状況となる。5年生も96人しかいないので来年も再来年も4、4、3のクラス編成を崩せられない。4、4、4になればブロック別の復活も可能だが、そのあたりがどう流れていくのかは学校の工夫だと思う。

山崎町長 皆さん方から中学校統合後の状況について課題というのが何かあれば議題

にしたいが、なければつぎの議題に入りたいと思う。よろしいでしょうか。

先ほどの中学校の教育方針の課題について等は皆さんの新しい切り口があれば聞かせてほしい。私としては鏡野町にスキー場があるので小学生たちがスキーに行ける環境をつくってほしい。大人になった時に子どもにスキーを教えてあげられる、少しでも可能性があるというのは、鏡野町だからこそ言えること。素晴らしい環境がせつかくあるので谷川で遊んだり木登りをさせたりキャンプをしたり、そういうことを多くさせられたらいいなと思う。

教育長 香北や奥津、富などは1年生から6年生まで全員連れていってスキーができる。南小は1年生から6年生まで全員つれていくと莫大な経費がかかるし、保護者負担の問題も出てくる。なかなか実現できないのが現状。

定久委員 以前はどここの学校も行ってた。少なくとも卒業までに3年間ほどは行ってた。しかし、保護者負担が結構ある。

山崎町長 保護者負担0で行かせるというのはどうか。

定久委員 そうなればまた違うかもしれないが、例えば服装などお金がかかる。いろんな面で負担がある。学校の時間数の問題もある。それで制約される。それで今は全部の学校参加というのは難しい状況。

山崎町長 子どもを育てるのには少なくとも鏡野町の行政ではお金がかかるからということはいいたくないが、できれば行かせてあげたい。

次はかがみの中央こども園の状況についてお聞かせいただきたい。

(2) かがみの中央こども園の状況について

(学校教育課長現状報告)

石原職務代理 中央こども園の話だけではないが、保育士の確保が問題。募集をかけても応募が少なく合格になっても短期で離職される方がいる。その辺の要因が、一面は延長保育等の就業時間の長さや給与面にあるのかと思う。一番心配するのは園長や園長代理になる人材が年齢的に少ない。計画的に人材確保をしていかなければいけない。何か優遇できるようなかたちで正職確保をしていかなければ。

教育長 正規職員はある程度いる。出産されたら3年間は育児休暇をとる。その間に産休に入りという状況が多いので、臨時職員に頼るしかない。ただ、町でも計画的に、退職もあるので3~4名は補充していただいている。ただ、正規職員を採用したからといって即戦力になるわけではなく、なかなか対応できずにすぐに辞めてしまう職員もいるので、やはり臨時職員に頼ることになってしまう。保育支援員として臨時職員を採用するのはいいと思うが、保育士資格を持った臨時職員に担任を任せるのは負担が大きいのかなと思う。給与面は町にお願いして担任手当をつけてもらうとか、長く勤めている方の定期昇給だ

とかをしてきている。周辺市町村と比較して鏡野町は給与面では高い。基本的には定数を定めている以上定数でお預かりできるような状況をつくらなければならない。少人数の保育園や幼稚園には無理をお願いしてぎりぎりの職員数でやってもらったりしながら必要なところに人材を回すという手法はとっている。ただ急に辞められたりだとか妊娠されたりだとかいろんなことがあるとそこにうまくタイムリーに補充できるかと言われれば難しいところがある。幼稚園よりも保育園というニーズが増えている。中央こども園も今年は幼稚園部が 9 人しかいないが、来年度以降はどんどん増えてきて職員の人数を増やさざるを得ない状況になるかもしれない。短時間であれば幼稚園免許だけでも大丈夫なので、配置を工夫してうまく回していきたい。年間の子ども数が 100 をきっている状況なのであまり正職を増やしてもという思いもある。6 園ある以上、その時にトップに立てる人材が 6 人ずつつくらないと厳しい。ここ 2、3 年が厳しい状況にある。

山崎町長 給与が高い安いというよりは働く環境が、保護者の要望と実際の現場というのがうまくいってないという状況にあるのではないかと。少しでも保育士と目線が一致するよう努力していきたい。17 時まで保育をして保護者へのお知らせを書くなどなかなか時間が取れない。少なくとも問題を共有して努力をしていきたいと思う。鏡野で保育をしていきたいというのが増えていけばいいのだが。

他にないようなら次に進みたい。では議題 3 のその他の件で何かありましたらお聞きをしたい。

(宗川委員資料説明) 赤ちゃん登校日について

山崎町長 高塚先生とは 3 回ほどお会いした。非常に人とのかかわりを大切にしており、その中で人間は育つということを述べておられる。何も知らない無垢な子ども、赤ちゃんと接することで、自分がわかるというか、そういったことを熱心に説かれている先生。

例えば、江津小学校のように、赤ちゃんが何人いて関わる子どもさんが何人いて、ペアリングはどうなのか。赤ちゃんが少なくて子どもが多いとまた別の刺激があると思うが。

宗川委員 この事業というのは赤ちゃん 1 人に対して生徒が少なくとも 2 人。そこで責任を持つ、責任が自分にかかってくるというところに、この事業の本当の意味がある。鏡野町の赤ちゃん全員を参加させるというのは無理があると思うが、保健師さんの声かけで、鏡野町でどのように育てほしいか、どういうお父さんお母さんになってほしいか、その声かけとみなさんの応援次第でできる事業。子育てをしている中で、誰かに頑張りを認めてほしいという気持ちがあると思う。それが今のお母さんたちが抱えている問題。おじいちゃんおば

あちゃんがいればおじいちゃんおばあちゃんに、近所の人がいれば近所の人に認めてもらう、誰かにこの事業を通して認めてもらう、振り返られる、そういう事業。お母さんが小学生や中学生と交流し、自分の子どももこういう風に大きくなるのだという想像ができる。そういった思いを共有できる。それらの魅力をお母さんたちにわかってもらってからの事業になると思う。すぐに取り組める事業ではない。この事業を知ってもらうところから。10月に高塚先生の講演があるので、それを聞いてもらいこの事業の魅力を感じてもらいたい。いいなと思ってくれる人たちでこの事業ができれば、江津市のように長く続いていくと思う。

山崎町長 例えば鏡野中学校ですとして、授業の関係もある。

宗川委員 3年生の家庭科の授業で赤ちゃんの勉強をする。そこに地域支援事業として地域の赤ちゃんとお母さんに来ていただくのはどうか。

武本室長 こういった事業をやるにあたって、小学校中学校どちらでやるのか検討もしなければならない。すぐにはとっかかりにくい。高塚先生の講座には昨年も参加したが、参加した人は得るものも大きい。地域の繋がりが昔ほどなくなってきているが、子どもたちも小さい頃からお互い助け合っていくという人間教育がこれから必要になってくるのではないかと思う。宗川さんが紹介してくれた事業があるということを知っていただいて、今後この会議のなかで来年度するのかどうか等進めていけたらと思う。

石原職務代理 宗川委員の言われた事業は、委員会の中だけで取り組める事業ではない。町と教育委員会等が共同で進めていかなければならない。連絡調整会議が必要かと思うし、教育課程の中で余裕時間がとれるようにしなければ進められない。消してしまうという話ではなく、種火を大きくしていく話かなと思う。

山崎町長 鏡野町に来られたらこの事業を見て皆さん方に感じてもらったものをこの場やその他の協議する場所があればそこで話してもらいたい。

教育長 コマ数で言えば8コマ、子どもが1対1なのか1対2なのかいろんな形もあると思うし、家庭科の時間に子どもたちが受ける授業があるなら1コマは高塚先生にヒューマンコミュニケーションの授業を子どもたちにしていだいてはどうか。子どもと接するコマ数が家庭科の中に3コマくらいあるのなら江津市のやり方をベースにして鏡野町流の赤ちゃん登校日をつくれればいいと思う。高塚先生が言われる赤ちゃん登校日をそのまま同じスタイルでいかななくても、工夫はしていけると思う。そのあたりが保健福祉課等の協力も得ないといけないし、そういう方向でいけばできるのではないか。小学校は来年から道徳や英語が増える。その中でコマ数が確保できるか問題。私は学校に押し付けたくない。学校現場が取り組んでみたいという意欲を出してくれるようには仕向けていかなければならないが。

山崎町長 ありがとうございます。時間もきたのでこれで閉会にさせてもらいたいと思います。

5 その他について

武本室長 その他ですが、次回を11月に開催したい。今日の高塚先生の話題であるとか塾の話題であるとか研究しながら資料をつくってみたいと思う。閉会の挨拶を石原教育長代理にお願いします。

○閉会挨拶 石原教育長職務代理